News Release

株式会社トヨタレンタリース札幌
〒060-0035 札幌市中央区北５条東２丁目１番地

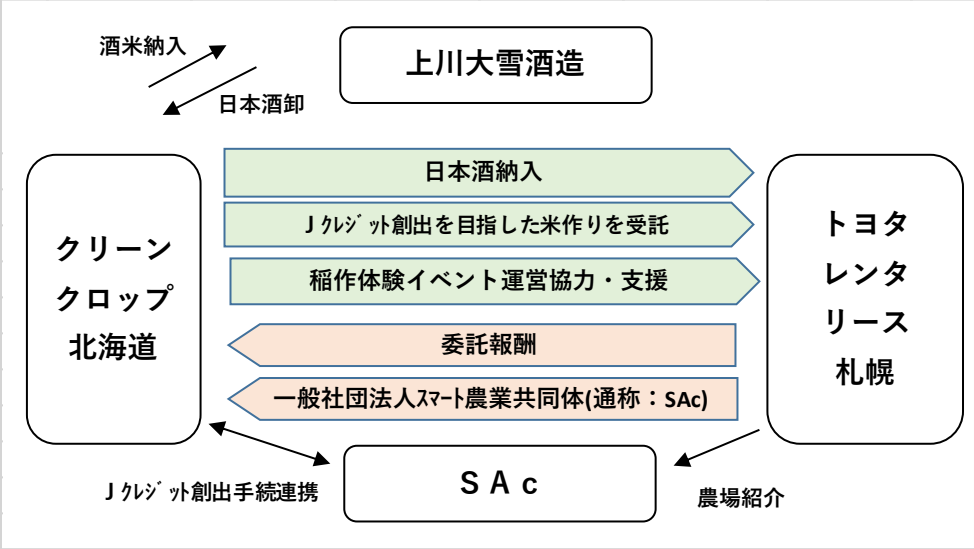
トヨタレンタリース札幌は「持続可能な農業支援プロジェクト」を実施、お米(酒米)作り支援し、日本酒作りを行いました

株式会社トヨタレンタリース札幌(社長：相茶　省三)は、グループ会社である札幌トヨタ自動車株式会社にて 2024 年より取組みを開始した脱炭素社会の実現に向けて「水稲栽培における中干し期間の延長」取組みへ挑戦する稲作農家を支援する「持続可能な農業支援プロジェクト」を企画しました。本取り組みにおける「お米(酒米)作り」は、当別町の株式会社クリーンクロップ北海道（社長：今井　民生様）と提携し、日本酒醸造については上川大雪酒造株式会社（社長：塚原　敏夫）にて実施しました。 この稲作における J-クレジット創出の支援スタイルが地域貢献の一手法としてより一層企業に認知され、さらに支援企業の輪が広がることで、農業由来の GHG（温室効果ガス）排出削減に資する取り組みが道内で広く普及することを願い、地域社会に提案いたします。

１．提携内容および主なイベントについて

□内容　　「水稲栽培における中干し期間の延長」による J-クレジット創出を目指した米づくり(酒米)を委託
□稲作委託先　株式会社クリーンクロップ北海道　代表取締役　今井　民生（住所：当別町東裏１６１３－２）
□日本酒醸造　上川大雪酒造株式会社　代表取締役　塚原　敏夫（住所：上川郡上川町旭町 25 番地 1)
□契約圃場　　石狩郡当別町東裏 3308-2　（面積約５０アール）
□J-クレジット創出連携先　認証・発行申請は SAc 社(札幌市白石区)※を通じて行う予定です。

※SAc 社については、本資料の末尾をご参照下さい。



□イベント　①稲作体験シリーズ「田植え」（2025 年 6 月 9 日実施）
②稲作体験シリーズ 「稲刈り」（2025 年 9 月 20 日実施）
※田植え、稲刈りについては弊社社員も実施しました。
③契約圃場で収穫された酒米で醸造された日本酒の納品（2026 年 6 月以降実施予定）

株式会社トヨタレンタリース札幌
〒060-0035 札幌市中央区北５条東２丁目１番地

２．「持続可能な農業支援プロジェクト」について

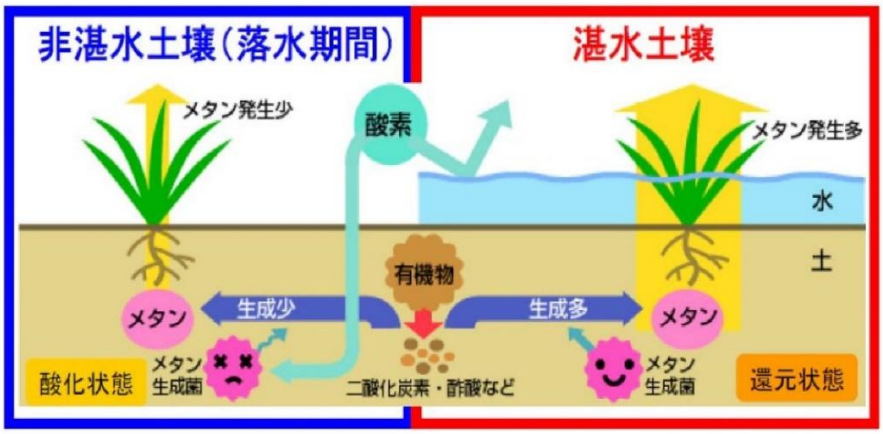
□新しく「水稲栽培における中干し期間の延長」に取組み、J-クレジット創出に挑戦する農家を支援

中干し期間の延長取組みに起因するリスクへの不安を取り除くことで、農家の挑戦を後押しします。

※「水稲栽培における中干し期間の延長」の効果とリスク

（令和５年９月 農林水産省『「水稲栽培における中干し期間の延長」の J-クレジット制度について』より引用）

農業由来の温室効果ガス排出を削減する取組みの一つに、「水稲栽培における中干し期間の延長」取組みがあります。水稲の栽培期間中に穂が出る前に一度水田の水を抜いて田面を乾かすことで、過剰な分げつ（根元付近からの枝分かれのこと）を防止し、成長を制御する作業を行います。この落水期間を長くすることで、水田から温室効果ガスのメタンの発生を減らすことができます。一方で、分げつが過剰になると、穂に十分な栄養が行き届かず、収量や品質の低下を招き、逆に強すぎる中干しは根を痛め、幼穂形成期以降の生育を阻害することにより、収量の低下を招き、また、寒冷地では地温が低下しやすくなるため冷害の原因となるといったリスクもあります。



（図の出典：農研機構）

□「持続可能な農業支援プロジェクト」の今般の支援方法

「水稲栽培における中干し期間の延長」による J-クレジット創出の取組みの障害となっている農家のリスクを、弊社が事実上担保することで、農家が当該取組みにトライアルすることを後押しします。

具体的には、以下の内容の委託契約を提携農家及び、日本酒蔵元と締結します。

・「中干し期間の延長」を取り入れた稲作(酒米)を実施し、J-クレジット創出に取り組むことを農家に委託
・契約した圃場で収穫された生産米(酒米)は、日本酒蔵元にて醸造後、全量弊社に納品
・契約圃場にて収穫された米の品質および収量の結果は問わない
・契約した圃場にて弊社が行う「稲作体験（田植え・稲刈り等）イベント」について、その運営を農家が支援する
・上記委託契約の包括的報酬として、予め合意した対価を弊社が支払う※醸造後の製品(日本酒)の支払は別途
・J-クレジット創出の連携会社としてＳａｃ社(弊社が農家への支援・協力を要請する企業)を紹介

なお、当該トライアルの結果は農家自身が評価します。農法の不安が解消し、取組みへの確信をもった農家は次年度以降の継続および圃場の拡大を検討し、当該農法による J-クレジット創出を本格的に実践することとなります。

News Release

株式会社トヨタレンタリース札幌
〒060-0035 札幌市中央区北５条東２丁目１番地

株式会社トヨタレンタリース札幌
〒060-0035 札幌市中央区北５条東２丁目１番地

□プロジェクトの目的

弊社は、札幌トヨタグループの一員として「私たちのまちの人々が幸せに暮らせる未来を創造する」ことを標榜し、以下の思いをカタチにする取り組みを実行しています。

1.脱炭素社会の実現に向けて
- ・事業活動を通じてカーボンニュートラルに挑戦
- ・地方創生を応援し、地域の皆様と共に知恵をしぼり、汗をかく

2.安全、安心、そして幸せを量産できる未来のモビリティ社会を創造
- ・社会課題に対し、モビリティサービスでソリューションに貢献する

3.このまち一番のお店へ
- ・地域の皆様と共に、このまちをもっとよくする
- ・地域の皆様、そしてお客様から頼られるお店になる

2022 年度の日本の GHG（温室効果ガス）排出量は、11.35 億トン（CO2 換算）で、このうち、農林水産分野は 4790 万トンの排出量とされています。また、GMP（グローバル・メタン・プレッジ）において世界全体のメタン排出量の削減目標（2030 年までに 2020 年比３０％削減）が掲げられています。とりわけ日本のメタン排出量の４２％は稲作由来であり、稲作における削減取組みの拡がりが目標達成に不可欠であると認識しております。
北海道における水稲作付面積は約 9 万 3,300 ヘクタール（令和５年産）であり、オール北海道の取組みとなれば、推定 47 万トン（CO2 換算）の GHG（温室効果ガス）排出削減効果が期待できます。

弊社は、このまちと共に脱炭素社会の実現に向けて、私たちにできることを一歩一歩前へ進めてまいります。
稲作関係者のみならず地域社会のなかで、『中干し』による J-クレジット創出への理解が深まり、取組みを支持する機運が高まることにより、『地球環境に優しい水田』が道内に広く普及することを願っております。

＜一般社団法人スマート農業共同体（通称：SAc について＞
一般社団法人スマート農業共同体（通称：SAc）は、「農業」をキーワードに、農業者と企業、団体、行政機関などが“つながる場”として活動しています。環境再生型農業を推進する手法の一つであるスマート農業の現場実装に向け、会員間による実証実験や各種イベントの開催をサポートしています。また、持続可能な農業の実現に貢献する取り組みとして、「J-クレジット制度申請サポート」を開始しました。
生産者（一般会員）が「水稲の中干し延長を方法論とした取り組み」により創出したカーボンクレジットを、企業会員が購入し、生産者に収益として還元する仕組みにより、SAc コミュニティ内での“クレジットの地産地消”を目指しています。

＜お問い合わせ先＞
株式会社トヨタレンタリース札幌
業務部　　部長　相原　圭介　　TEL：011-281-2875